

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	道路維持課長 山崎泰助	電話番号	0852-22-5187
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	道路維持修繕事業		
目的	(1) 対象	道路利用者	
	(2) 意図	道路を安全で快適に利用できる状態に維持する	
事業概要	道路を安全で快適に利用できる状態を維持するため、 ・道路パトロールにより、変状等を早期に発見し適切な修繕を実施するとともに、 ・舗装の打ち替え等の整備や、 ・橋梁等の道路施設の老朽化対策、 ・除草その他、交通機能を確保するための維持修繕を行う。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 道路管理瑕疵による事故件数	目標値		22.0	22.0	22.0	22.0	件
		取組目標値						
	式・定義 当該年度中に発生した道路管理の瑕疵が認められる事故の総件数	実績値		25.0				%
		達成率		-	-	-	-	
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						%
		達成率		-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	7,208,798	7,109,886
うち一般財源 (千円)	3,269,366	3,495,316

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

道路を安全で快適に利用できる状態に保つためには、交通機能の確保に支障をきたす変状等を速やかに発見し対処することが重要であり、そのために、路線ごとに交通量に応じて週1～2回の頻度で道路パトロールを実施している。あわせて路面については、効果的な維持修繕を実施しており、平成27年度調査では、島根県が管理する道路延長3,031kmに対し、延長比89%の道路で舗装路面維持管理指数(MCI)3.5以上を確保した。老朽化対策については、法で義務付けられた施設（橋梁、トンネル等）について近接目視点検を実施し、点検結果をもとに計画的に長寿命化を図る修繕工事を行っている。特に橋梁については、職員の技術力の向上とコスト縮減を図るため、平成27年度より職員による直営点検を始めた。また、法で義務付けられた以外の道路施設（道路法面等）についても、点検マニュアル等を策定し、計画的に点検・修繕を行っている。その他、交通機能を確保するための道路維持修繕については、除草作業等を計画的に実施している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成27年度の成果

- 舗装の打ち替え等の整備を促進した。
整備延長 33km
- 道路施設の定期点検を促進した。
道路橋 385橋
トンネル 5本
シェッド・大型カルバート 20基
法面 1,478箇所
- 道路施設の老朽化対策を促進した。
道路橋 51橋
トンネル 34本
シェッド・シェルター 8基
法面 33箇所
その他付属施設 85基

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
道路施設の維持管理を効果的に実施するため、特に老朽化対策については点検等で得られたデータの蓄積と活用が一層重要となっている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
近接目視点検等、あらたな取り組みを行うなかで、より効果的な老朽化対策を行うための、施設の状態の見極めや、適切な時期に最も効果的な対策をたてるためのデータの蓄積と活用に対して知識と経験が不足していること。
- ③原因を解消するための「課題」
効果的な老朽化対策を行うためには、的確な健全度の診断や、対策時期、対策工法を判断するための、データの蓄積と活用ができるよう、職員の技術力向上に継続して取り組むことが必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

日々の道路パトロールで得た様々な情報を事業に活かすよう、パトロール結果等の分析やデータの蓄積を進める。橋梁をはじめとする各種道路施設の老朽化対策については、専門家から助言を得る体制を活用し、的確な診断に基づく、効果的な修繕を行いながら、点検等のデータの蓄積や活用方法を身に付けてゆく。適切な維持修繕を実施した結果が現れる指標として、道路管理瑕疵に起因する事故の減少を目指す。過去5年の平均事故件数が25件であったため、これを1割以上減少させることを目標とする。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）